

平成 13 年 10 月 9 日

集団疎開学童の孫の世代、山形県遊佐町との「友好の田んぼ」で稲刈り 米作りを通して「総合的な学習の時間」

本日 10 月 9 日（火）、区立椎名町小学校（南長崎 4—30・田中延男校長）で、山形県遊佐町と豊島区との「友好の田んぼ」の稲刈りが行われた。

この「友好の田んぼ」は、今年 6 月に遊佐町から贈られた特産米「ひとめぼれ」の苗と稲の栽培に必要な土壌や資材を使い、区立椎名町小学校、同長崎小学校、同要小学校の各校に作られたもの。夏の水不足や酷暑の中、子どもたちが心をこめて育てあげ、今日椎名町小学校で収穫の日を迎えた。「かかわりを通して豊かな心をもつ子どもの育成」を校内研究のテーマに、椎名町小学校の子どもたちは、田おこし・田植え・草取り・稲刈り等の米作りを体験し、食べ物の尊さ、感謝の心や自然環境などについて、総合的な学習の時間を通して学ぶとともに、国語・社会・家庭科等の授業の中でも米作りに関連することを学んできた。

山形県遊佐町は鳥海山の麓、庄内平野にあって、4 千町歩におよぶ田んぼが広がる米所。この遊佐町と豊島区との友好交流は平成 3 年から始まり、豊島区からは農業体験ツアー等が生まれ、遊佐町からは「としま商人まつり」への参加（物産展、芋煮会）があった。平成 7 年には災害時の相互応援体制を図る「防災協定」を締結し、最近では、1 昨年、昨年と豊島区観光協会から区の木であるソメイヨシノの桜の苗木を遊佐町に寄贈、遊佐町では「友好の森」として整備され、民間交流も深まっている。今回の「友好の田んぼ」は、この「友好の桜」の返礼として、遊佐町特産米「ひとめぼれ」の苗を豊島区に寄贈したもの。

昭和 19 年（1944 年）8 月、戦災を避けるため東京の学童たちは地方へ集団疎開した。豊島区内の小学生はほとんど長野県への疎開したが、長崎地区国民学校 3 校〔長崎第一国民学校（現・長崎小学校）、同第二（現・要小学校）、同第三（現・椎名町小学校）〕と東京第二師範（旧豊島師範）付属国民学校は、山形県に疎開した。今回偶然にもその山形県に疎開した小学校 3 校に「友好の田んぼ」が作られ、疎開した学童たちの孫にあたる子どもたちが今、時代を越えて山形県特産米「ひとめぼれ」を小学校で収穫した。

授業は、午後 1 時 30 分から椎名町小学校内にある田んぼで、児童の手による「稲刈り式」から始まった。校長先生のあいさつの後、高野区長や伊東遊佐町教育長などの鎌入れが行われ、この後、椎名町小学校 5 年生 31 人の児童たちがこの 4 ヶ月愛情を注いできた稲に思い思い鎌を入れ、稲刈りを体験した。今後は、稲を乾燥・脱穀し、11 月の収穫祭で今回取れた米をおにぎりにして食べる。この模様はビデオに収められ、ビデオレターとして遊佐町に送る予定である。

慣れない手つきで稲刈りをした子どもたちは「思っていたより簡単に稲刈りができた」「初めてなので楽しかった」と語っていた。

詳細：椎名町小学校